

—命と光と愛を世界のために—

LIFE, LIGHT AND LOVE FOR THE WORLD

GROWTH



後援会通信 春号 vol.4 2004.4

—大学と家庭をむすぶ— Linking the University with Families

 東北学院大学

CONTENTS

●ごあいさつ	1
●平成16年度後援会総会概要	3
●平成16年度地区後援会開催一覧	4
●学長インタビュー	5
●新入生特集 夢に向かって	7
●キャンパス・スケッチ	9
●ゼミナール訪問	11
●年間スケジュール	12
●私と東北学院	13
●キャンパスニュース、スクールモットー	14
●キャンパスの声、学生部だより	15
●国際交流を考える	16
●同窓生インタビュー	17
●サークル紹介、編集後記	18

表紙：泉キャンパス礼拝堂



後援会 会長 村 松 巖

(株)七十七銀行代表取締役頭取、同銀行代表取締役会長、
(社)全国地方銀行協会副会長などを歴任。

現 在

仙台商工会議所会頭、日本商工会議所副会頭、東北六県商工
会議所連合会会長、東北経済連合会副会頭、(株)七十七銀行
相談役など多数の要職に就任。

ごあいさつ

春まさにたけなわの頃となりました。在学生のご父母の皆様方には、ますますご壮健のこととお慶び申し上げます。日頃は本後援会の活動に対し、格別なるご理解とご支援を賜り深く感謝申し上げます。

さて、東北学院大学後援会は、在学生のご父母の皆様を会員として、ご子女の円滑な学生生活と大学の充実・発展に寄与するため昭和24年に設置されました。設置されて早半世紀以上が過ぎますが、その間“大学と家庭をむすぶ”をモットーに各種事業を展開して参りました。その中でも、後援会総会と地区後援会は最大の事業であり、ご父母の皆様と大学の教職員が直接交流できる場として大変好評をいただいております。

また、後援会では、皆様からの会費をもとに課外活動に対す

る補助や奨学金への助成を通して、ご子女の学生生活の支援も行って参りました。近年、経済情勢が不安定で家計状況が急変し、奨学金貸与を希望する学生が増えていると聞いております。大学は貸与奨学金制度を導入し「緊急貸与奨学金」を交付しておりますが、後援会では支援活動の一つとしてその「緊急貸与奨学金」へ助成を行っております。

このように、後援会は大学と家庭の連携を密接にしながら活動しており、平成16年度も後援会総会と地区後援会を計画し実施して参ります。特に、後援会総会では、大学の協力を得て「大学教員による公開講座」「パイプオルガンコンサート」「学科別懇談会」「学務部・学生部・就職部による相談コーナー」など多彩な大学開放プログラムを用意しております。昨年は約1,600名のご父母に後援会総会と大学開放プログラムにご参加いただきましたが、今年も多くのご父母の皆様と大学の教職員が意見を交わすことができ、併せてご子女とご一緒に有意義なひとときをお過ごしいただきたいと願っております。

地区後援会については、昨年復活した地区のご父母から当地でも毎年開催してほしいと熱いご要望が寄せられ、今年も昨年と同じ旭川地区から浜松地区まで全32地区で開催いたします。総会と同様、熱心な会員の皆様との交流が図られますよう各地区に大学の教職員を派遣し、大学の教育方針の説明や近況報告、本学教員による公開講座、学務部・学生部・就職部による説明及び個別面談などを実施いたします。後援会といたしましては、親元を離れて学生生活を送っているご子女の成績や就職問題等について、少しでも皆様の悩みや不安の解消に繋がればと願っている次第です。

最後になりますが、会員の皆様方には今後とも後援会活動に積極的にご参加をいただき、更なるご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

後援会 役員名簿

平成16年4月1日現在

会 長	村 松 巖 (仙台市)	理 事	寒河江 満 子 (仙台市)	理 事	深 澤 禎 彦 (横手市)
副 会 長	江 馬 成 夫 //	//	浅 野 ひとみ //	//	工 藤 敏 納 (盛岡市)
//	三 島 卓 郎 //	//	朝 倉 隆 文 //	//	及 川 和 夫 (北上市)
庶務担当理事	後 藤 久 幸 //	//	壺 岐 洋 治 //	//	大 友 敏 男 (宮古市)
会計担当理事	高 橋 祥 允 //	//	柴 田 仁 市 郎 (塩釜市)	//	浦 島 康 弘 (大船渡市)
理 事	平 野 貞 夫 //	//	古 関 英 一 (多賀城市)	//	佐 島 清 人 (山形市)
//	高 橋 俊 宏 //	//	門 脇 利 勝 (石巻市)	//	笹 敬 史 (新庄市)
//	堀 田 正 昭 //	//	坂 本 憲 一 (気仙沼市)	//	柴 橋 敬 一 (酒田市)
//	阿 見 孝 雄 //	//	桂 久 (札幌市)	//	佐 々 木 信 之 (福島市)
//	伊 東 知 男 //	//	成 田 智 典 (青森市)	//	石 田 博 基 (郡山市)
//	佐 久 間 敬 子 //	//	高 橋 秀 彦 (秋田市)	//	只 野 裕 一 (相馬市)

この4月に東北学院大学の第4代学長を拜命いたしました星宮望でございます。後援会会員の皆様には、常日頃、本学の教育・研究に対して深いご理解と温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

東北学院は、1886(明治19)年に教師2名と生徒6名からはじまり、お陰様を持ちまして今年で創立118周年を迎えます。その間、1949(昭和24)年には学校教育法の改正に伴い東北学院専門学校が新制大学に昇格し、現行の東北学院大学がスタートいたしました。当時は文経学部の単一学部で英文学科と経済学科の2学科だけでしたが、現在では5学部11学科3専攻を擁し、東北・北海道地区を代表する総合私立大学に発展するまでになりました。

現在、東北学院大学には学部学生が約12,400名と大学院生が約230名在籍し、学問研究の研鑽と課外活動にそれぞれ励んでおります。また、予定より準備を進めてきました大学院法務研究科法実務専攻(法科大学院)が4月に開学しました。本学では高度な専門知識と幅広い柔軟な思考力を備えた「町弁護士」の養成を目指していますが、法曹になろうと情熱を持った学生の夢を実現させるため、優秀で経験豊富な教員スタッフを配置したほか「法科大学院・総合研究棟」を建設するなど充実した学習環境を整備したところです。創立以来、本学はプロテスタント・キリスト教に基づく人間形成を建学の精神とし、個人の尊厳を重視する教育の伝統のもとに聖書の隣人愛と奉仕の教えを大切にしてきました。この建学の精神は140,000余名の同窓生にも引き継がれ、専門の知識や技術を活かしながら、それぞれの分野で「地の塩」「世の光」として活躍しているところからお分かりいただけると思います。

このように、東北学院大学は学生の広い学習や色々な可能性に応える教育・研究体制を整えていますが、後援会からのご援助が、これらの学生の多様な学生生活と個性豊かな人格形成に大いに役立っていることは申し上げるまでもございません。大学



学長
星 宮 望

東北学院大学工学部教授。工学博士。
東北学院中学・高等学校卒。東北大学大学院工学研究科電子工学専攻博士課程修了。北海道大学教授、東北大学教授、東北大学副総長などを歴任し、平成16年3月東北大学を定年退官。専門は生体電子計測、神経筋系の電子的制御など生体電子工学。

ごあいさつ

としても学生諸君が充実した学生生活を送れるよう各種支援体制を整えサポートしておりますが、何よりも後援会からのご援助がありたく今後ともお願い申し上げる次第です。

いま世界は、社会、政治、経済のあらゆる領域で急激に変化しています。本学では、その変化し続ける社会に対応できる人材の育成に努めておりますが、同時に「絶えず変革されるべき大学」をモットーに常に時代の要請に応える大学へと日々改革に努めております。これからも本学独自の伝統を重んじつつ、21世紀に活躍する学生の皆さんに幅広い学びの場を提供できるよう、教職員一人ひとりが努力を惜しまない所存です。そして困難な時代だからこそ、本学学生がその掛け替えのない学生時代に自らの個性を磨き、人間として大きく成長することを心から願っております。

理事	福井由紀	(新潟市)	参与	齋藤誠		参与	高木龍一郎	事務局員	桔梗元子
監事	伊東幸三	(仙台市)	"	鹿又武		"	高橋征士	"	今野靖
"	天江皓一	"	"	佐々木俊三		"	高橋秀悦	"	石山仁
"	白木進	"	"	細谷良夫		"	伊藤浩吉	"	千田祝久
顧問	赤澤昭三	"	"	佐々木哲夫		"	飯土井公洋	"	小原武久
"	倉松功	"	"	高橋克己		"	大童敬郎	"	石上貫繁
"	星宮望	"	"	樋渡滋		事務局員	菅野健		
参与	関谷登	"	"	高橋彌穂		事務局員	高橋嘉男		
"	大塚浩司	"	"	遠藤恵子		"	清水時郎		
"	平河内健治	"	"	林伸太郎		"	井上捷二		
"	遠藤和朗	"	"	小田三千子		"	佐々木文彦		

平成16年度後援会総会開催概要

日時：平成16年5月22日(土)10時40分

場所：泉キャンパス礼拝堂

●今年も泉キャンパスの緑が一番映える5月に総会を開催することになりました。当日は、本学教員による公開講座やパイオルガンコンサートをはじめ、学科別懇談会、各部相談コーナーなど大学開放プログラムを多数用意しております。また工学部学生のご父母から要望がありました「多賀城キャンパス見学」を今年から実施します。この機会に、ご子の学生生活の一端に触れていただければ幸いです。皆様方のご参加をお待ちしております。



時間	プログラム
9:00	<p>受付 9:00~14:00</p> <p>個人別資料(科目登録届)をお渡しいたします。なお、2年生以上のご父母で成績に関して相談を希望される方は、5月中旬までに大学から送付される「単位修得表」をご持参下さい。</p>
10:00	<p>大学礼拝 10:00~10:30 ご子女と一緒に大学礼拝に出席してみませんか。</p>
11:00	<p>後援会総会 10:40~12:00</p> <p>(1)開会宣言 (2)聖書朗読・祈禱 (3)後援会会長・学長あいさつ (4)議事 ●平成15年度庶務報告 ●平成15年度収支決算報告 ●平成16年度事業計画(案) ●平成16年度収支予算(案)など (5)閉会宣言</p> <p>学務部・学生部・就職部からのご説明</p>
12:00	<p>休憩(自由時間) 12:00~12:20</p> <p>本学教員による公開講座 12:20~13:00</p>
13:00	<p>パイオルガンコンサート 13:10~13:40</p>
14:00	<p>学科(専攻)別懇談会 13:50~14:50</p> <p>(1)学科(専攻)の教育内容について (2)質疑応答 (3)学科(専攻)教員との自由懇談(希望者)</p>
15:00	<p>多賀城キャンパス見学(希望者) 15:00出発(予定)</p> <p>※無料バスを用意 ※多賀城キャンパス解散(17:00予定)</p>
16:30(終了)	

屋 食
11:00~14:20

受付にて「昼食券」をお渡しいたしますので、学生食堂にて昼食をお召しあがり下さい。

大学開放
10:40~16:30

施設開放

- 就職資料室
- 図書館
- 情報処理センター

クラブ活動

- 体育館
- グラウンド

大学紹介

- ビデオ上映(オーディオ・ヴィジュアルセンター)

各施設とも自由にご見学下さい。

相談コーナー
12:30~16:30

学務部

- 科目登録について
- 成績表の見方について
- 進級・卒業について

学生部

- 奨学金について
- クラブ活動について
- アルバイトについて

就職部

- 進路全般について
- 民間企業への就職活動について
- 教員・公務員への試験対策と準備について

平成16年度地区後援会開催一覧

日時：平成16年7月17日(土)～9月11日(土)

場所：旭川から浜松まで全32地区(詳細は、下の開催地区一覧をご参照下さい。)

- 総会と同じ内容で実施いたします。各地区に教職員を派遣して、ご父母の皆様方と十分に懇談ができるよう準備を整えております。なお、地区後援会のご案内については、該当する地区の皆様を対象に6月中旬ごろ改めて行います。



地区後援会プログラム(予定)

個別面談(希望者)

〈全体会開始〉

大学からのごあいさつ

学務部からの説明

学生部からの説明

就職部からの説明

本学教員による公開講座

大学紹介ビデオ上映

〈全体会終了〉

昼食(※軽食を準備いたします)

個別面談(希望者)

開催地区		期 日		会 場
旭	川	9月 3日(金)	10時00分～14時00分	旭川ターミナルホテル
札	幌	9月 4日(土)	//	京王プラザホテル札幌
函	館	9月 2日(木)	//	函館ハーバービューホテル
弘	前	8月 27日(金)	//	シティ弘前ホテル
青	森	8月 28日(土)	//	青森国際ホテル
八	戸	8月 21日(土)	10時00分～15時00分	八戸グランドホテル
大	館	8月 20日(金)	10時00分～14時00分	秋北ホテル
秋	田	8月 21日(土)	10時00分～15時00分	秋田ビューホテル
横	手	9月 4日(土)	10時00分～14時00分	横手セントラルホテル
盛	岡	8月 7日(土)	10時00分～15時00分	ホテルメトロポリタン盛岡
宮	古	8月 28日(土)	10時00分～14時00分	浄土ヶ浜パークホテル
釜	石	8月 27日(金)	//	釜石ベイシティホテル
北	上	9月 3日(金)	//	ホテルシティプラザ北上
一	関	9月 10日(金)	//	ホテルサンルート一関
大	船	8月 26日(木)	//	大船渡プラザホテル
気	仙	9月 11日(土)	//	サンマリン気仙沼観洋
新	庄	8月 27日(金)	//	ニューグランドホテル
山	形	7月 17日(土)	//	ホテルキャッスル
酒	岡	9月 10日(金)	//	東京第一ホテル鶴岡
酒	田	9月 11日(土)	//	ル・ポットフー
米	沢	8月 28日(土)	//	東京第一ホテル米沢
福	島	7月 17日(土)	10時00分～15時00分	福島ビューホテル
郡	山	8月 21日(土)	//	郡山ビューホテルアネックス
会	津	8月 6日(金)	10時00分～14時00分	会津若松ワシントンホテル
相	馬	8月 7日(土)	//	ホテル ふたばや
い	わ	8月 6日(金)	//	いわき東急イン
水	戸	8月 5日(木)	//	水戸京成ホテル
宇	都	9月 11日(土)	//	ホテルサンシャイン
新	潟	8月 7日(土)	//	新潟東急イン
高	崎	9月 10日(金)	//	高崎ワシントンホテルプラザ
東	京	8月 7日(土)	//	品川プリンスホテル
浜	松	8月 6日(金)	//	オークラアクトシティホテル浜松



学長インタビュー

星宮望前東北大学副総長(東北大学工学部教授)が、4月1日に学長に就任しました。「東北学院大学の近未来の改革」を提唱した倉松功前学長の後を受け、星宮学長は地域社会と連携を深めながら21世紀の要請に応える個性豊かな人材を育成する意向を示しました。東北学院との出会いから教育に対するビジョンまで新学長にインタビューを行い、学長の考えをお伺いしました。(聞き手は後援会事務局)

—先生は小学校を卒業されて東北学院中学校に進学されていますが、東北学院との出会いはこの時が最初ですか。

はい、東北学院中学校に入学した時が東北学院との最初の出会いです。父が熱心なクリスチャンで、祖父も熱心なクリスチャンでした。そのようにクリスチャンの家庭で育ったので、キリスト教系の学校で学ぶことには全く抵抗がありませんでした。さらに、父が戦前から戦中にかけて帝国海軍の燃料廠の研究者でしたが、敗戦後は教育に捧げようと地元の仙台に戻り、東北学院大学の教員に採用されました。当時は、東北学院の教員の息子は東北学院中学校に入学することが望まれておりましたので、迷うことなく東北学院中学校に入学しました。

—先生は多感な少年時代に東北学院中学校と東北学院高等学校で学んでおられますが、中高一貫教育の東北学院で学んで良かった点はどんなところですか。

東北学院の中学・高校の6年間は、毎朝礼拝で讃美歌を繰り返し唱和し、主イエスの教えを呈示されて育ちました。神を敬い人を愛する教育を受けたことは、私の人格形成の土台に大きく影響しています。また、当時の月浦利雄校長に代表されるように大変教育熱心な先生方に、学力よりもっと人間として成長するようにと多面的に教えていただいたのが良かったと思っています。

—先生の人格的土台が東北学院中学・高校時代に据えられたようですが、特に印象深く覚えておられる恩師はいますか。

何と言っても月浦先生でしょうね。先生は「働くということは相手(はた・周り)を楽にすることだ」と折に触れて話していましたが、社会にあって「地の塩」「世の光」として生きることの大切さも教えて下さいました。それは塩となって潔い心で腐敗を防ぎ、どんな小さな光であってもその光は闇の中にいる人々に大きな慰めと希望を与えるから、この世を照らす光として人の役に立つように生きなさいということだと思っています。

それから、将来必ず役に立つからと月浦先生には英語力を身につけるよう厳しく指導されました。私は高校を卒業したら理数系の学部に進学したいと思っていましたので、英語を軽く見ていたところがありました。それを月浦先生は鋭く見抜き、自分の英語力がいかに低いかを思い知らされることになりました。結局、それがきっかけで英語の勉強に取り組みました。若い時に英語力を高めることの重要性を実感させられました。

—先生は電子工学を専攻されましたが、その動機は何ですか。また、先生の研究内容とその成果についても教えてください。

私が小学校の頃に鉄腕アトムを少年雑誌で見て、人工頭脳や口後援会通信 vol.4

ロボットへの夢を抱いたように思います。その後、漠然とですが将来コンピュータ関連の分野が伸びると感じていました。それと私の3つ上の従兄がたまたま東北大学工学部の電気系の学生で、彼から東北大学の電気系の凄さというものを聞いていました。戦前の八木・宇田アンテナ、マグネトロン、磁気録音の3大発明と戦後の光通信などですが、この従兄のアドバイスが電子工学を専攻したきっかけです。

私の専門は、メディカルエレクトロニクスです。簡単に言うと、交通事故などで脊髄が損傷し神経が遮断されますと足や腕の機能が麻痺します。このような患者さんの神経に外部から電気刺激を与えて動作を回復させる「機能的電気刺激(FES)」を研究してきました。初めて人体の神経に電極を入れて電子的制御をしようという研究を始めた頃は批判も多くありましたが、今では先端医療の一分野として注目されています。

—自分の心に留めておいて戒めや励ましとしている言葉はありますか。

「艱難は忍耐を生み、忍耐は練達を生み、練達は希望を生む」です。この言葉は「ローマの信徒への手紙第5章」の聖句ですが、困ったことや嫌なことがあってもそれらに耐えて何とかやっていけば最後には希望があるという教えです。私の名前の「望」は、ここから来ていると思っています。

—ところで、本学が開学して以来、学外から、さらに自然科学系から学長に就任されたのは先生が初めてですが、学長に就任された感想をお聞かせ下さい。

東北学院中学・高校で育てていただいたという意味では母校です。大変光栄に思っています。と同時に、身が引き締まる思いです。今までは研究者として精一杯やってきましたが、これからは高等教育に全力を捧げていきたいと思っています。私は東北大学副総長の時に東北大学の全学教育の改革に携わっていましたので、その経験を活かし倉松前学長が掲げた「教養教育型大学」の実現にお手伝いさせていただきます。

—これまで東北大学の教員として客観的に本学を見て来られたと思いますが、東北学院大学についてどんな印象をお持ちでしたか。

最近国立大学も地域貢献が求められるようになってきました。私が副総長の時に文部科学省から東北大学の地域貢献の計画について問い合わせがあり、私が学内の取りまとめをしました。その時つくづく思ったのが、東北学院大学の地域貢献は凄いということでした。東北大学は全国区とか世界的とか言われていますが、おそらく医療などのいくつかの理工系の分野を除いて東北大学は地域

貢献の面では東北学院大学の足元にも及ばないんじゃないかと思
います。東北学院大学は東北・北海道地区の教育界・産業界・経済
界などに沢山の人材を送り出し、地域との連携を図っていますから
ね。

また、私立大学はどれも同じと思いますが、特に東北学院は同窓
生を非常に大切にしていると思っています。大学が約14万人の同
窓生をサポートしておりますし、またその一方では、同窓会が大学
をサポートしています。同窓会支部あるいは職場のTG会活動を通
して、同窓生と学校は一体化しているように思います。

**一本学は私立大学ですから、明確な「建学の精神」を有しています。
それは一言で「キリスト教に基づく人間形成」と表現できるかも
しませんが、先生はその「建学の精神」をどのように具現化さ
れていくおつもりですか。**

東北学院の三校祖であります押川方義、W.E.ホーイ、D.B.シュネー
ダーの先生方が高らかに謳われた「個人の尊厳の重視と人格の完成」
を歴代の院長と学長は脈々と引き継いで来られました。私もこの精
神は大事にし、堅持していきたいと思っています。その上で、神に対
する畏敬の念と隣人への愛の精神を培う教育を礼拝や授業だけで
なく、キャンパスのあらゆる機会を通して行っていきたいと考えてい
ます。例えば、教員だけではなく職員も学生と接する訳ですから、
建学の精神を伝授していくのは可能です。私も積極的に学生の中
に飛び込んで行こうと思っています。

**一少子化が進む現代社会にあって、大学間競争が一層激しさを増
しています。より個性豊かな魅力ある大学が求められている中で、
高等教育機関として本学が今後どのように社会的使命に応えて
いくのか先生のビジョンをお聞かせ下さい。**

前にもお話ししましたが、東北学院大学は地域と連携を図ってい
ますので、さらにその連携を深めていきたいと考えています。例えば、
研究に限らず学生のインターンシップを含めた産学連携や、ある
いは大学が所有している知的財産を地域にもっと活用していくこと
も大事なことです。それから法科大学院が4月に開学しましたが、そ
の目的は地方で貢献できる法曹人を養成することですので、これも
地域貢献の一つと思います。

高等教育機関としての大学にはこれまで以上に地域貢献が求め
られてきますので、いろんな意味で学長のリーダーシップを発揮して
学内改革を推進し、社会的使命に応えていくつもりです。

**一前学長が「東北学院大学の近未来の改革」を提唱されましたが、
それへの取り組みはどのように進めますか。また、先生が日々考
えている近未来の教育改革についてもお聞かせ下さい。**

前学長が提唱された教育改革は大変素晴らしいものですので、
私はぜひ継承していきたいと考えています。特に、Information
Technology(情報技術)に代表されるIT教育と英語教育には積極
的に取り組んでいきます。それは私の職務だと思いますし、ITと英
語は21世紀を生きる人にとっては大変重要で不可欠なものになる
からです。また、前の質問にも関連することですが、IT技術の能力と
英語力を向上させていくことは、大学間競争に勝ち抜くことにも繋
がると思います。

英語に関しては、元国連事務次長の明石康さんが「母国語では
ない人々の英語はお国なまりで・・・」と述べておられます。また外国
生活の長いアムステルダム在住の方が朝日新聞に投稿していまし

たが、世界で最も使われている言葉は統計上Broken Englishだそ
うです。アメリカ人やイギリス人のような英語を喋る必要はないと
いうことですね。Japanese Englishが国際スタンダードと思って構
わない。日本人は上手に喋ろうと思うから、それができないと遠慮
してはにかんでしまいます。Broken EnglishやJapanese English
が国際スタンダードなんだ、とむしろ思っていると思います。ただし、
英語を話そうとする時は英語だけを勉強するのではなくて、どちら
かと言えば日本の歴史や経済、あるいは日本人のものの考え方や
日本のカルチャーなどの知識がないと英語は喋れません。本当に
大事なものは、英語の単語を並べるのではなくて、教養を高めること
だと思います。もちろん、その時はJapanese Englishでいいんです。

**一先生は小学校時代に「挫折」を経験されたと同っております。
先生の経験から今の学生に何を期待しますか。**

私は虚弱な幼少期に落第といじめから挫折を経験しましたが、
父が何とか私を虚弱児から脱却させようと毎日のようにキャッチボ
ールの相手をしてくれました。当時の子どもたちの遊びは、男の子に
は野球しかありませんでしたので、私は父を相手にキャッチボ
ールをしました。そうしているうち、次第にスピードとコントロールがつか
ようになり、体が大きかったものですからピッチャーになりました。
そして小学校4年生の時でしたが6年生と野球の試合をすることに
なり、4年生が6年生に勝っちゃいました。それでやっといじめられ
なくなり、ピッチャーとしても認められ、虚弱児からも抜け出ること
ができました。

少し前置きが長くなりましたが、私の経験から学生に期待したい
ことは、とにかく若い時は失敗を恐れなくてどんどん新しいことにチャ
レンジしてほしいと思います。今の学生は少しチャレンジ精神が弱
いように感じています。私のような年になってからの失敗は許され
ませんが、若い時の失敗は許されます。むしろ、その苦勞や努力の
中から得られるものは大きいと思いますし、必ずそこから学ぶもの
があります。そういう意味でも、本学の学生には失敗を恐れず、新し
いことにチャレンジしてほしいですね。

一最後に、本学の学生に何を学んでほしいと思っていますか。

ものを考える時の座標軸とでも言いたいでしょうか、あるいは基準と
言いたいでしょうか、それを東北学院大学にいる間にぜひ学んでいただ
きたい。ともすれば、大きな流れがどちらに向いているか分かりにく
いことも多いと思いますが、考える基準を持つということは社会貢
献に繋がりますし、人々のために働くことによって自
分の生活も豊かになって
いきます。大学というところ
は学問の府ですから、知識
や技術を身につけると同
時に、ぜひ学生時代に考
える習慣も身につけてほ
しいと思います。「主を畏れるこ
とは知識のはじめである」
というしっかりした柱があ
って発揮される個性こそが、
次世代を担ってくれるもの
と期待しております。



夢に向かって

新入生特集



私の出身高校

岩手県立宮古高等学校

宮古市宮町二丁目1番1号。全日制課程普通科に男子387人、女子456人の合計843人、定時制課程普通科に男子40人、女子28人の合計68人、総合計911人が在籍。同校は、1923年(大正12年)4月に宮古町立宮古実科高等女学校として創立。1949年(昭和24年)に学制改革により新制高校に転換し、校名を岩手県立宮古高等学校と改称。昨年の11月1日に創立80周年を迎え、卒業生は20,620人を数える。



経済学科1年
横道 羽玲 君

横道羽玲(はれい)君の母校は、岩手県立宮古高等学校。宮古高校は、JR宮古駅から南方向へ徒歩5分の文教地区に立地し、近くには三陸海岸を代表する景勝地「浄土ヶ浜」がある。同校は大正12年に宮古町立宮古実科高等女学校として開校し、昭和24年に新制高校への転換に伴い現在の校名に改称、岩手県では名実共に「沿岸の雄」と称せられている。

同校の校風を表す言葉として「天行健 君子以自強不息(てんこうけんなり くんしはもってみずからつとめてやまず)」がある。21代目の校長を務める川口征雄先生は「これは中国五經の一つの『易経』という本の中の言葉ですが、人間社会がどんなに変わっても天体の運行は一時も滞ることがないように、我々も普遍の真理を求めて自ら進んで励むべきだという教訓です。“天行健(てんこうけんなり)”は本校校歌の最初の言葉で、宮高生の心の支えとなっています。」と話す。また、川口校長は、同校を文武両道の学校と一言で表現する。「学業と部活動の両立に真摯に取り組み、運動部・文化部ともに県内有数の成績を取っています。大学への進学も生徒自ら自学自習に取り組み、第一志望の大学に多く進学しています。本校の生徒は常に真理の探究を怠りません。苦境に立たされても果敢にチャレンジし、生き生きと伸び続けてほしいですね。」とエールを送る。

川口校長が話すように、同校の進路状況は目覚ましい。2003年3月卒業生の実績は、国公立では東京大をはじめ岩手大、弘前大、東北大、筑波大、富山大、京都教育大、大阪市立大などに進学している。私立大学では東北学院大学が最も多く、次いで盛岡大、工学院大、東北工業大、日大、東京理科大、慶応大、明治大などと続き、ここに「沿岸の雄」と称せられる所以がある。そして同校教員の平均年齢が38.3歳と若く、「先生方も燃えていますし、生徒も燃えています。教

員と生徒の信頼関係が成り立っています。」と川口校長は目を細める。部活動も非常に盛んで、校長室には10本の優勝旗が飾られてある。特に、ヨット部、ボート部、硬式野球部、ラグビー部などは何度も全国大会出場を果たしている。文化部では放送部が朗読部門でNHK杯全国高校放送コンテストに出場し、音楽部や吹奏楽部などの活躍も著しい。

横道君は、軟式野球部のエースとして活躍したスポーツマンである一方、勉強も出来た文武両道の模範的な生徒だった。3年次のクラスを担当した細野進先生は「明るく真面目な生徒でした。勉強とスポーツ両方を得意とした生徒で、学業では英語と社会科が特に優れていました。また、クラス仲間からの信望も厚く、クラス対抗のスポーツ祭“オリンピック”の委員として上手にクラスをまとめていました。課外活動でも主将としてチームを引っ張り、クラブ顧問の先生からも非常に高い評価を得ていました。大学では良き師と巡り合って、自分の可能性をどんどん広げていってほしいです。」と期待を寄せる。横道君は中学時代からファッション関係に興味があり、大学を卒業したらアパレル関係の仕事に就くことを希望している。そして将来は自分の店を持ち、マーケティングや経営学を勉強して将来に活かすため経済学科を志願した。「経済学に興味があるんです。なかでも東北地方の経済学を勉強したい。これからの学生生活にはまだまだ不安がありますが、夢を実現するため勉強をしっかりと頑張り、課外活動もやってみたい。夢ですか?東北独自のファッション文化を築きたいんです。これまで両親に助けてもらったので、将来は親をいろんなところに連れて行ってあげたい。」と親しいの優しい一面を覗かせる。“栄の光を仰ぎつつ”、夢に向かって横道君のチャレンジが始まる。



校長
川口 征雄先生



担任
細野 進先生

夢に向かって

新入生特集

私の出身高校



山形県立新庄南高等学校

新庄市城南町5番5号。全日制課程普通科・商業科・家政科に男子107人、女子492人の合計599人が在籍。同校は、1914年(大正3年)4月に新庄町立実科高等女学校として創立。1948年(昭和23年)に学制改革により校名を山形県立新庄第二高等学校と改称し、その後昭和27年4月に現行の校名となる。今年で創立90周年を迎え、卒業生は16,000人を超える。



経営学科1年
庄司 知美 さん

庄司知美さんの母校は、山形県立新庄南高等学校。新庄南高校は、かつて新庄藩の城下町として栄えた新庄市の閑静な住宅地に創立以来位置し、遠くには出羽富士の鳥海山や霊峰月山が眺望できる。

同校は大正3年に最上地方の女子教育を担うため新庄町立実科高等女学校として開校し、今年で創立90周年を迎える。現在は普通科・商業科・家政科の3つの教育課程を併設し、幅広い豊かな知識と技能の習得を目指す教育を行っている。また、同校は「清楚・誠実・進取」を校訓とし、自覚と誇りをもった品位ある人間を育成し、活力ある校風を樹立することに努めている。

校長を務めるのは、26代目にあたる梶川英毅先生。「普通科と専門学科が併設されているのは、山形県内においては非常に珍しいです。これが本校の特色ですね。もちろん学力向上に努め進路希望の実現を図っておりますが、本校では校訓の具現化を目指し、温かい人間関係を築く教育にも労を惜んでおりません。校訓を忘れず、生徒たちには誠実で品位ある人間に育ってほしいですね。」と梶川校長。

同校の2003年3月の卒業の進路状況は、全校の7割以上が進学している。国公立では地元の山形大をはじめ小樽商科大、横浜国立大などに進学し、私立では四大が東北学院大、東北芸術工科大、東北公益文化大、拓殖大、帝京大、東海大など東北・関東地方への進学が多い。短大では山形短、米沢女子短、尚絨女学院短、鶴川女子短、実践女子短などに進学している。また、同校には輝かしい歴史と伝統を誇る部活動が多い。なかでもバドミントン部(女子)は山形県高校総体で27回の優勝数を誇り、インターハイでも団体準優勝が3回、ダブルス優勝1回、シングルス準優勝1回などと素晴らしい成績を残している。他にもソフトテニス部、卓球部、弓道部も県高校総体で

優勝しており、陸上部は全国高校女子駅伝にも出場している。ちなみに、平成9年の東京国際女子マラソン大会で優勝した伊藤真貴子さんは同校の同窓生である。文化部では書道部が全国高等学校総合文化祭に常連校として出品し、美術部、演劇部、吹奏楽部などの活躍も光る。

庄司さんは、中学時代に山形県内で個人総合2位にランクされたテニスプレーヤー。高校1年生から同校テニス部のエース級として活躍し、2年生からキャプテンを務めた。顧問で進路課主任の佐藤寛稔(ひろみ)先生は「中学時代の実績を自慢する生徒ではありませんでした。アドバイスを素直に受け入れる性格のいい子で、人の面倒見がとてもしっかりした生徒でした。テニスの実力は県内で1・2位を誇ると思いますが、ただ優しい性格のため、あと一歩のところまで涙を呑んだこともありました。」と当時を振り返る。山形県高校総体で団体準優勝と東北大会では3位に導いた庄司さんは、「将来は教員になって母校の生徒たちにテニスを指導したい」との思いでスポーツ推薦入試を受験した。「中学時代から東北学院大学でテニスをプレーすることに憧れていました。寛稔先生からも勧められましたが、昨年8月の大学ソフトテニス部合同練習会に参加して入学をさらに強くしました。大学では自分の希望を叶えるためしっかり勉強に取り組み、部活と両立させていく覚悟です。そして高校時代に果たせなかった全国大会でぜひ優勝したいです。」と庄司さん。顧問の佐藤先生を寛稔先生と呼び合う関係は、何か不思議な親近感を感じさせる。はじめて親元を離れ、慣れない大学生生活をスタートさせたばかりの庄司さん。母校の恩師の声援を受け、夢に向かってこれから庄司さんの挑戦が続く。



校長
梶川 英毅先生



テニス部顧問
佐藤 寛稔先生



キャンパス・スケッチ *Campus Sketch*

春から夏にかけて各キャンパスは桜、そして新緑に彩られます。学生たちはスポーツや勉学に励み、それぞれのキャンパスライフを楽しんでいます。





畠山 悦郎 ゼミ



テーマ:英国ルネサンスと抒情詩

英文学科 4年 長谷川 雅子
宮城県仙台南高校出身

私は文学の中でも特にイギリスの詩に興味を持っていたので、「英国ルネサンスと抒情詩」というテーマの畠山ゼミをすぐに選択しました。

英国エリザベス朝から王政復古期にかけての抒情詩を幾つかのテーマに即して鑑賞してきました。中心的なテーマはcourtly love(宮廷風恋愛)で、その発生・流行・変質のプロセスを辿りながら抒情詩というジャンルの特質を考えてきました。英語で書かれた作品を和訳するだけでなく、ルネサンスから古典主義へのパラダイムの移り変わりに内在する目に見えない問題点を考えることを最終的な狙いとして取り組みました。

先生から教えられることだけを学ぶのではなく、毎回グループに分かれ、自分たちで調べ、資料を作成し、それを発表しながら進めていくので決して楽ではありませんが、だからこそ一つの作品を読み終えた後の達成感が大きく感じられました。

作品を鑑賞する中で、詩人はなぜこの言葉を用いたのか、どんな意味や思いが込められているのか、など短い詩の中で何を伝えたかったのか考えることが楽しく感じられるようになりました。その時代の歴史的背景や宗教なども絡んでいるため、原文でしか伝わらない面白さが詩にはあります。ゼミの後半で

はジョン・ダンという詩人の作品の、語りの二重構造化などを考察し、詩にますます興味を持つようになりました。かつて詩人は宮廷に属しており、テキストに記名することも許されていませんでしたが、次第に作者の名声願望が作品の中に表れてきていることを時代ごとに読み進めることで理解しました。

先生も熱心に指導してくださり、授業の途中に見せてくださる絵画を鑑賞することで詩の世界がより鮮明になりました。それぞれが予習して授業に参加しているので疑問が生じたら学生同士で質問し合うなど、ポジティブな姿勢でゼミに望んでいます。発表の際の協同作業などを通し、仲間同士信頼関係を深めることもできました。

今年は「アレゴリーの変質」についてがテーマです。これからも積極的に学んでいきたいと思います。



先生からひとこと

主に詩の成り立ちや流通(受容)のありようを追いかけてながら、文学と人間の心性構造や文化との関わりを考えています。ゼミでは古い時代のテキストを扱っていますが、むしろ不思議と近代が抱える諸問題の有り処に接近していくような感覚を覚えます。学生にはいつも「いま」をみる(読む)視点を養って欲しいと願っています。学ぶことに積極的ないい学生たちに恵まれていると常々実感しています。

大学の年間スケジュール(学事暦)

本学の教学に関する年間スケジュールをお知らせします。ご父母の皆様方にもお覚えいただき、ご子女の円滑なる学生生活にお役立て下さい。

前期

4 月	
1日(木)	成績発表(工学部、3・4年)
2日(金)	成績発表(文・経済・法・教養・二部、2・3・4年)(工学部、2年)
5日(月)	入学式
6日(火)	新入生オリエンテーション(～11日)
12日(月)	授業開始
19日(月)	科目登録届提出(工学部、2・4年)
20日(火)	科目登録届提出(文・経済・法・教養・二部、全学年)(工学部、1・3年)
26日(月)	科目登録届確認(文・経済・法・教養・二部、2・4年)(工学部、全学年)
27日(火)	科目登録届確認(文・経済・法・教養・二部、1・3年)(工学部、全学年)
5 月	
15日(土)	創立記念日(授業休講)
22日(土)	後援会総会(10:40～ 泉キャンパス礼拝堂)
29日(土)	対青山学院大学総合定期戦(東京、～31日)
6 月	
12日(土)	対北海学園大学総合定期戦(仙台、～14日)
24日(木)	大学院特別選考入学試験
7 月	
12日(月)	授業終了(文・経済・法・教養・二部)
13日(火)	補講(文・経済・法・教養・二部、～17日)
17日(土)	授業終了(工学部)
20日(火)	前期試験(文・経済・法・教養・二部、～26日) 振替授業・集中講義・補講(工学部、～23日)
24日(土)	前期試験(工学部、～8月2日)
27日(火)	夏休み開始(文・経済・法・教養・二部、～9月11日) 集中講義(文・経済・法・教養・二部、～31日) 第32回アークサイナス大学夏期留学生出発(帰国:8月24日)
8 月	
3日(火)	夏休み開始(工学部、～9月11日) オープンキャンパス
上旬	対青山学院大学二部交流定期戦(仙台) 対北海学園大学二部総合定期戦(札幌)
9 月	
6日(月)	集中講義・補講(文・経済・法・教養・二部、～11日) 振替授業・集中講義・補講(工学部、～11日)
11日(土)	夏休み終了

後期

9 月	
13日(月)	授業開始
	前期試験成績発表
30日(木)	9月期卒業・学位記授与式
10 月	
7日(木)	大学院秋季入学試験(前期課程)
16日(土)	ホームカミングデイ(第5回同窓祭) 中旬 大学祭・工学部祭
12 月	
3日(金)	泉キャンパスクリスマス
15日(水)	授業終了、クリスマス礼拝 (文・経済・法・教養・二部)
16日(木)	冬休み開始(文・経済・法・教養・二部、～1月7日) 授業終了、クリスマス礼拝(工学部) 集中講義・補講(文・経済・法・教養・二部、～22日)
17日(金)	冬休み開始(工学部、～1月7日) 公開東北学院クリスマス(土樋キャンパス) 振替授業・集中講義・補講(工学部、～22日)
1 月	
4日(火)	補講(文・経済・法・教養・二部、～7日)
7日(金)	冬休み終了
8日(土)	授業開始
15日(土)	大学入試センター試験(～16日)
17日(月)	授業終了
18日(火)	後期試験(文・経済・法・教養・二部、～24日) 後期試験(工学部、～27日)
2 月	
1日(火)	前期日程入学試験(～4日) 中旬 卒業生発表
22日(火)	大学院春季入学試験(前期課程)
23日(水)	大学院春季入学試験(後期課程)
3 月	
8日(火)	後期日程入学試験
24日(木)	卒業・学位記授与式

私と東北学院



経済学部教授
増田 周二(ますだしゅうじ)

1942年平塚市生まれ。東北学院大学文経学部卒、中央大学大学院満期退学。専門は社会病理学。四国学院大学文学部講師、助教授を経て、現在、東北学院大学経済学部教授。1997年から1年間ロンドン大学客員研究員。共著に「成熟社会の病理学」(学文社)、「病める関係性」—ミクロ社会の病理—(学文社)など。

私と東北学院との最初の出会いは中学校に入学した時に始まります。入学した年は、ちょうど東北学院創立70周年にあたり、さまざまな記念行事が行われ、私たちも提灯行列に参加したり、杉山元治郎先生(第5代目理事長)の記念講演を聴く機会があり大変感動しました。

東北学院の中学・高校では一貫教育が行われ、生徒の能力を伸ばしてやろうと情熱をかたむけている先生が多かったように思われます。たとえば、英語担当の石沢先生には中学1年から3年までの英語のテキストを暗記させられ、暗記がうまくできないと授業の時に「愛のげんこつ」が飛んできました。お陰で英語の基礎能力が身についたと感謝しております。また精神的な面でもキリスト教に出会い、それがきっかけで教会に通うようになり、人生の指針を与えられたと考えております。

東北学院大学に入学してからは、男性合唱団グリークラブに入部して、4年間、好きな黒人霊歌や宗教曲を歌う

ことができ幸福でした。特に夏休みの東北・北海道の演奏旅行は楽しい思い出が沢山でき、今でも北海道の空と海の「青さ」が印象に残っております。

大学を卒業した後は東北学院の大学図書館の司書として採用され5年間勤務しましたが、この期間に大学紛争が起き、苦しく悲しい体験をしました。母校と学生のために一生懸命働きたいと思っていたので、学生と対立することは非常に悲しい出来事でした。

その後退職し、5年間大学院で社会病理学を専攻し、修了後四国学院大学の社会福祉学科に就職し、7年間勤務し、母校に帰ってこられた時は大変うれしかったです。最近の学生を見ていて考えることは、目的意識をもって勉強する学生が少なくなったということです。何でもよいから他の人に負けない得意なものを身につけて卒業して欲しいと願っています。

私が現在研究しているテーマは、「構成的犯罪学」(Constitutive Criminology)であります。最近の日本では犯罪が多発し、凶悪化し、その原因がよく解らないと言われています。それは社会構造が転換期にあり、システムが複雑化し、犯罪が転移現象を起し、これまでの犯罪理論に基づく線形モデルでは、犯罪の因果関係が十分に説明できなくなってきました。そのため犯罪の基本的なモデルを構成し、コンピュータ・シミュレーションによって得られた結果との比較から新しい犯罪の非線形モデルを構成することを目的としています。



◆法科大学院がスタート

弁護士や裁判官などの法曹人を養成する法科大学院が、全国の68校(国立22校、私立46校)でこの4月一斉に開校しました。本学でも昨年の11月27日(木)に文部科学省から設置認可を受け、入学者選抜など開校の準備を進めてきましたが、その準備が全て整い4月から地域に根ざした“町弁護士”の養成が始まりました。

また、法科大学院等の学習支援を推進するための「法科大学院・総合研究棟」がこのほど完成し、去る2月27日(金)に定礎式並びに献堂式が挙行されました。新棟は鉄筋鉄骨コンクリート造で地下1階・地上8階の構造となり、講義室、演習室及び自習室などのほか法廷教室や司法試験対策室が設置されています。難関を突破した第一期生の57人は司法試験の合格を目指して勉強に励んでおり、3年後の朗報が待ち望まれます。



◆対北海学園大学定期戦「50回記念大会」が開催される

昭和30年に開催された北海学園との定期戦は今年で50回目を迎えることになり、その記念大会が6月12日(土)～14日(月)まで開催されます。定期戦は交互に当番校となって開催され熱戦が繰り広げられます。

定期戦には両大学の体育会に所属している合計21団体・総勢800人が参加し、母校の名誉をかけて青春の汗を流します。また、記念大会とあって今回は多数のOB戦も予定されており、現役学生ともども両大学の友情を育み交流の輪を広げます。ちなみに、対戦成績は本学の49連勝となっています。

なお、本学では青山学院とも定期戦を行っていますが、今年は青山学院大学が当番校となり5月29日(土)～31日(月)まで開催されます。

◆就職部主催のインターンシップが実施される

学生の就労意識と就職意欲を高めるために、単位認定を伴わないインターンシップ(就業体験)が本学ではじめて実施されることになりました。このインターンシップは就職部が企画して行うもので、本学の要請に応じて総数75の企業から最大216名の学生受入れの支援があり、今年の夏期休暇中に実施されるものです。今後の課題は、インターンシップに参加する学生の募集とマッチング(学生の希望する企業と企業が希望する学生との双方向調整)を円滑に遂行することが挙げられます。インターンシップに参加することにより学生のキャリアアップが期待されますので、より多くの企業に支援をお願いしこの企画を推進していきたいと考えています。

— 命と光と愛を世界のために —

LIFE, LIGHT AND LOVE FOR THE WORLD

表題は、東北学院大学設置50周年を記念して制定された大学スクールモットーです。

「LIFE LIGHT LOVE」は、仙台大火災後、1922(大正11)年に再建された東北学院中学部新校舎の正面入口に掲げられていた言葉で、爾来、東北学院スピリットを象徴する3L精神として親しまれてきました。この言葉に関する言及は、第二代院長D. B. シュネーダー先生が日本基督教会東北中会の機関誌『神と人』第17号(1923年)に寄稿した「生命(いのち)、光明(ひかり)、愛」と題した説教の中にその敷衍的解釈が見いだされます。

3Lは、当時、アメリカ合衆国ドイツ改革派教会から派遣された宣教師たちにとって、彼らのキリスト教伝道のスピリットを表明する親しみ深い言葉でした。合衆国改革派教会の月刊誌『The Missionary Guardian』(1891年～)の表紙中央に「LIFE, LIGHT AND LOVE FOR THE WORLD」と記され、その下にマルコ福音書16章15節のイエス・キリストの言葉「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」が付されてあるとおりです。このように、3Lは、本来宣教師たちが宣べ伝えようとした福音を「全世界の生命、光、愛」として捉えた標語であると理解されます。それゆえ、21世紀の今日、3Lをもっと広く、また、現代人に理解されるように捉えられるべきと考えます。むしろ標語の原形に帰り、「LIFE, LIGHT AND LOVE FOR THE WORLD」として使用した方が現代人に理解しやすいと思います。

東北学院大学のスクールモットー「LIFE, LIGHT AND LOVE FOR THE WORLD」は、本学の教育の営みを表現するにとどまらず、本学を卒業した方々の励ましになる言葉であると考えます。

キャンパスの声

～学生インタビュー～



相澤 孝明 君
法律学科4年
宮城県向山高校出身

もともと考古学や歴史が大好きで、文化財を保護する法律に対し疑問を感じる部分があったことから、法学部で詳しく学んでみようと思い立ちました。

長岡龍弐先生のゼミは、先生からの例題や実際の判例をもとに意見や反論が飛び交い、これがとても面白いんです。

今後はロースクールへ進学し、法律の専門家を目指したいです。自分が学んだことを、文化財を守るために活かすことができればいいですね。その目標のため、家族にはまだまだ迷惑をかけるかもしれませんが、これからも未永くよろしくと思っています。

添田 貴美 さん
教養学科言語文化専攻2年
栃木県立宇都宮中央女子高等学校出身



映画部ではいい先輩に恵まれました。1年生の時から撮影スタッフとして映画制作に関わっています。今年は私も2年生として、後輩にいろいろと教えてあげながら皆でいい作品を作りあげたいと思います。

親元を離れて暮らしていますので、心配をかけないようにまめに連絡し、大きいお休みごとに帰るよう心掛けています。次に帰るのは夏休みですね。それまでテスト勉強やサークル活動で忙しくなりそうですが、学生生活の様子を沢山伝えられると思いますので楽しみに待っていてほしいです。



吉田 友香里 さん
教養学科言語文化専攻2年
私立仙台育英高校出身

高校時代にイギリスへ短期留学したこと、そして授業で中国語を学んだことから語学に興味を持つようになり、もっと深く中国語を勉強したい！とAO入試の面接でもアピールしました。

入学してからは、文化基礎論の授業など言語文化ならではの科目に非常に興味をひかれます。コミュニケーションとはどういうものなのかを、これからじっくり学んでいくつもりです。

1年生の時は一般教養と教職科目、そして週3日のアルバイトで自分の時間が少ない状態でしたが、そろそろ余裕も出てきましたのでサークルに入って趣味の時間も充実させたいなと考えているところです。

学生部だよ

◆奨学金のご案内

奨学金制度は、経済的事由によって修学が困難な学生に学資を貸与し、学業に専念できるよう援助することを目的としています。本学では次のような奨学金制度を設けています。

- **東北学院大学奨学会奨学金（無利子貸与）**
授業料のおよそ80%相当額を1年間貸与します。対象は学部学生および大学院生です。
- **東北学院大学キリスト教学科奨学金（無利子貸与）**
授業料の全額または一部を1年間貸与します。対象はキリスト教学科の学生です。
- **東北学院大学夜間主コース奨学金（給付）**
文学部および経済学部の夜間主コースに在籍する有職者が対象で、年額30万円を給付します。審査を経て最長4年間給付が受けられます。
- **東北学院大学緊急奨学金（無利子貸与）**
家計支持者の死亡・疾病・失業等により家計状況が急変し、修学が困難になった学部学生および大学院生が対象です。当該学期の学納金額が貸与上限となります。緊急奨学金は在学中1回みの貸与となります。

●入学時ローン制度・学費ローン制度

金融機関と提携し、通常よりも低い金利で借入ができるようにした制度です。入学時ローンは入学時納付金納入時に、学費ローン制度は学納金納入時にご利用下さい。両制度ともローン利子給付奨学金の対象となります。

●入学時ローン・学費ローン利子給付奨学金（給付）

入学時ローンおよび学費ローンの融資対象となった学生と大学院生が対象です。最短修業年限内に支払うローン利子額と同額を、奨学金として学生に給付します。

—その他の奨学金制度—

- **日本学生支援機構奨学金**
・第一種奨学金（無利子） ・第二種奨学金（有利子）
・緊急および応急奨学金
- **地方公共団体、民間育英団体奨学金**
それぞれ条件が異なります。

◆奨学金を希望する学生のみなさんへ

奨学金は学生本人に貸与されるもので、返還は学生本人が行います。学生部では、奨学金を有効活用し学業に専念できるよう、随時相談に応じておりますのでご利用下さい。

国際交流を考える



—国際化時代を生き、
真の国際人として
世界に貢献する—

国際交流部長 小田 三千子

留学制度が充実していることが、受験生が入学したい大学を選ぶ際の大事な条件の一つになっています。このことは、全国規模の国際交流関連研修会で数年前から報告されていることです。本学で毎年8月上旬に行われるオープンキャンパスにもこの傾向がはっきり現れています。国際交流課が開設する留学相談コーナーを訪れる高校生の数が増加の一途をたどっているのです。年によっては、銀行のように番号札を用意すべきだったと反省したほどです。親子連れの相談者もあり、中には本学に入学して、留学後に海外の大学院へ進学することについてまで相談している人もいます。大学の国際化、特に留学先の確保は、大学経営の点から見ても大変重要になってきているということです。

本学の国際交流は、大学の創設以来、国際経験豊かな教職員によって運営され、「国際的な大学」というイメージが定着していると思います。今後は国の内外からの要請に応え、教育・研究を一層国際化することで、このイメージの中身を充実させていく必要があると思います。「建学の精神」に基づいて、国際社会に対する貢献をも視野に入れた教育および研究を推進することにより、グローバル化した21世紀にふさわしい優れた人材を輩出することが、本学の国際交流の目的になっているからです。

現在、国際関係がますます重要になっています。そこでよく言われる「グローバル化」の概念の歴史は20世紀初頭まで遡ることができ、「変化する過程」として理解されていました。グローバル化の意味は、倫理的に中立であり、その勢いの向け方により、良くも悪くもなるものです。勢いが良い方向に向けられれば相互依存の国際化した世界ができ、悪い方向に向けられれば一層空虚な国粹化した世界となります。そしてグローバル化の勢いを世界平和の方向に向けるためには、「地球共同体」という意識を教育を通して育てる必要があります。なぜなら、人には元来

「変化を嫌がる気持ち、移動して根無し草になりたくない気持ち」があるからです。

また国内を見ても外国人が急速に増え、これらの人々と共存していく上で、異文化理解能力の豊かな人材の育成が小学校教育からの重要な課題になっています。企業でもこのような能力を持つ人を求めているとのこと。文化は人の見方を規制すると言われます。文化は異なった認知スタイル、行動様式を育成すると考えられ、民族の認知スタイルの研究のなかには、「場から独立した」スタイルと「場に従属した」スタイルという概念があります。人間は元来、両方の認知スタイルを持って生まれると考えられています。しかし、人間は文化を発達させましたが、いつのまにかそれに束縛されてしまっています。本来の全面性を取り戻すこと、すなわち、自分の「文化を超えて」自分の隠れた次元を発見するための努力が、異文化間コミュニケーションであり、異文化理解能力の獲得につながるのです。

留学生交流は、人材の育成による知的国際貢献として位置付けられ、国際的に開かれた社会の実現に大きく寄与する事業として期待されています。我が国の留学生受け入れ10万人計画が実現された今、特に留学生交流の双方向での拡大が時代の要請となっています。例えば、ご子女が慣れ親しんできた言語・文化の環境とは全く異なる国に留学し、単位修得を目指して勉強することの意義は沢山あります。中でも留学経験から得られる自立性、自己実現力、国際的な人的ネットワーク、多様性への理解能力、日本の言語・文化を再評価する姿勢の形成は、諸外国との知的交流の深化にきっと貢献することでしょう。留学の準備は、入学直後から始めても早すぎることはありません。皆様のご子女が、本学の留学制度を活かして留学し、真の国際人として世界に貢献されるよう是非側面から支援していただきたいものです。



同窓生インタビュー「今、旬の人」

CM制作ディレクター **菊地 貴公**(きくち たかひろ)さん

昭和63年文学部英文学科卒業。東京の広告代理店を経て、東京のCM制作会社に入社。その後、在仙のCM制作会社に勤務し、29歳の時に個人事務所「バブル」を設立。現在オンエア中のCMでは、NTTドコモ東北のほか仙台の「泉パークタウン」や「うまい鮎助」などがある。本業の傍ら、昨年コーポラティブハウス(数世帯が出資して建設する共同住宅)の建設組合を設立し、組合長としても多忙な毎日を送る。



「私が××××やった方がましよ!」と3年前に自民党宮城県連のセンセーショナルなテレビCMが流れましたが、このCMを菊地さんが制作されたと同じました。菊地さんがCM制作の世界に入ったきっかけは何ですか。

学生時代に映画部に所属していたことがきっかけかもしれません。私は映画を観て楽しむというより、カメラを持って制作するほうに興味がありました。卒業する段階では、CMディレクターとかプランナーは美術関係の勉強を専門にした人になるものと思っていましたので、最初は東京の広告代理店で営業の仕事をしていました。

でも、やっぱり現場に立ちたかったので、広告代理店を1年で退社し、東京の制作会社に入社しました。当時はCMディレクターへの憧れはありましたが、まさか今のように制作の真ん中で自分がやれるとは思っていませんでした。

最近ではカメラ付携帯のCMで遠野市や野口英世青春館などのロケ地はどこも観光客が急増しているそうです。東北を舞台にヒットCMを連発されておりますが、秒単位のCM作りで一番苦労されているところはどんなところですか。

正直言って一番苦労するのは、仕事を取ってくることです。作るということも勿論大変なのですが、作るのは楽しくて仕方ありません。仕事ですが、ワクワクしてきます。その楽しい仕事を作ることがすごく大変です。ただ、いくら内容のいいものを作る自信があっても、何も声がかからないのでは制作したくても作れません。仕事の声がかかるように頑張るのが大変です。

CM作りで菊地さんがやりがいを感じる時とはどんな時ですか。

一杯ありますが、中でも企画がクライアントに“おもしろいね”と喜んでくれた時です。制作側がいくら自信满满で企画書を持っていても、お客さんによっては全く理解していただけない時もあります。それと、出来上がったCMをクライアントが実際に見て喜んで下さった時ですね。

視聴者のことですか。あまり視聴者のことは制作段階では考え

ていませんね。ただ、視聴者が喜ばないものをCMに流してもクライアントにとってはメリットがありませんので、そう言った意味では考えていますよ。CMに流せばこの商品は売れますよとか、企業のイメージが上がりますよ、ということは考えています。視聴者に喜んでもらえれば別に商品なんか売れなくてもいいんじゃないですか、なんていうことは全く考えていません。

CM制作の世界では「東京にいないと芽が出ない」と言われるそうですが、仙台で菊地さんが目指すCM作りとは何ですか。

クライアントがいて発注を受ける訳ですから、私がいくら目指してもCMに関しては仕方ありません。発注が来てはじめて目指すものが出来ます。ただ、私はどんな発注が来て、それに応える準備は常にしています。これまでもやってきたことですが、他の人ではやれない仕事をやっていくことです。

ところで、学生時代について特に印象に残っている思い出は何ですか。

やっぱり、映画部で自主映画制作に熱中していたことでしょうね。自分が撮影したフィルムを荒町の写真屋さんで現像してもらい、文団連本部の3階にあった部室を暗くして壁に小さな映写機で上映していたり、また、部室でクラブの仲間と映画談義をしたことをよく覚えています。

最後に、先輩として在学生にメッセージをお願いします。

私はまだ他人に教訓を述べる立場にありませんが、自分の励みになる生き方を見つけてほしいと思います。特に何をやりたいてでもないという人を時々見かけますが、それで本当に楽しいのかなと思うんです。私は周りの人がやらないようなことをやって“人より頑張ってる”と思うことがとても気持ちよく、独り善がりかもしれませんが、人よりいい生き方をしていると思うことが凄く自分の励みになっています。もしよければ、皆さんも自分の励みになる生き方を見つけてみてはいかがでしょうか。

サークル紹介

Circle

セツルメント会



第48代セツルメント会委員長
英文学科4年

渡辺 聡

宮城県仙台西高校出身

私たちの会は昭和30年より葛西重雄初代委員長を中心に、キリスト教の教えの一つである「隣人愛」の精神の下、奉仕活動を開始したのが始まりとされています。このセツルメント会も来年で50周年を迎えるわけですが、この半世紀の中で諸先輩方のボランティアに対する貫かれた精神を覗うことができます。当時は施設への定期訪問や募金活動、分校訪問での人形劇や影絵の上映等、学外での活動への熱心な取り組みは周囲からも注目されていたようです。時に活動に対する意見の衝突から会が分裂した時代もあったようですが、様々な問題に対し激しく議論し、最後は皆が同じ目的に向かって一致団結してきたからこそ、今のセツルメント会があるのだと思います。

現在、会員数は23人と昔に比べれば少なく、活動そのものも時代とともに変わってきています。現在は月・木曜日の週2回を活動日とし、毎週木曜日は国立療養所西多賀病院と仙台基督

教育院の両施設を訪問しています。患者さんの身の回りのお手伝いや子どもたちのお勉強を中心に、会員が両施設に分かれて活動しています。

会の伝統行事としては毎年夏休みを利用して行われるワークキャンプがあります。これは毎週訪問させていただいている施設への感謝と患者さんや子どもたちとの交流を目的に、両施設において数日間ボランティア活動を行うもので、毎年多くの学院生も参加しています。そして最近是他大学のボランティアサークルの方との交流、さらには学内においてボランティア情報の掲示を行い、学生が気軽にボランティア情報に触れることのできる環境作りにも力を入れています。

私たちはこのような活動を通して多くの方と出会い、そしてそこから人と人との繋がりの大切さを得ることが出来ます。今後もこのような素晴らしい伝統ある活動を受け継ぎながら、新たな福祉社会に対応すべく活動を模索し、さらに飛躍したセツルメント会を目指していきたいと思ひます。



編集後記

「後援会通信」は4月と10月の年2回発行し、ご父母の皆様にお届けしています。後援会では大学とご家庭との連携が深まることを願い、本通信にご子女のキャンパスライフの様子や大学が取り組んでいる事などを紹介し、また、多くのご父母の方々が本学教職員と直接交流が図れる場としての後援会総会と地区後援会の開催についてもお知らせしています。

大学では、単位修得表(成績表)送付の手続を済ませられたご父母に対して、平成15年度後期よりご子女の単位修得表を郵送することになりました。これは、学習支援の一環としてご父母の方にも単位修得状況を把握していただき、ご子女への助言や激励等の精神的なご援助にご活用いただくためです。前記の単位修得表は5月中旬までお手元に届く予定になっています

が、後援会総会並びに地区後援会において成績に関する個別面談を希望される方は、お手数でも送付された単位修得表をご持参下さるようお願いいたします。

なお、単位修得表送付の手続をまだお済みでない方は、恐れ入りますが学務課(☎022-264-6475)へお問い合わせ下さるようお願いいたします。

後援会では、本通信を“大学と家庭をむすぶ”に相応しい機関誌として皆様のご期待に沿えるよう内容を一層充実させて編集して参りますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

後援会事務局長 菅野 健

GROWTH

GROWTH(グロース)の意味は、「成長する」です。聖書には、小さな種が大きな木に成長し空の鳥がその枝に巣を作る(マタイ13章32節)。また、そのように大きく成長させてくださるのは神である(1コリント3章6節)と記されてお

ります。東北学院大学の学生の皆さんが各専門分野において知識や技術や教養を十分に修め、神と人に祝されつつ大きく成長するよとの期待が表題の**GROWTH**に込められております。

東北学院大学後援会事務局(総務部調査企画課内)

〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号 TEL:022-264-6424

<http://www.tohoku-gakuin.ac.jp>

e-mail c.kikaku@staff.tohoku-gakuin.ac.jp